高　山　３　号　墳

発掘調査報告

１９９２年３月

河合町教育委員会

例　　言

1．本書は1991（平成３）年度に河合町立西穴闇保育所児童プール設置工事に伴う事前調査として河合町教育委員会が実施した高山３号墳発掘調査の報告書である。

2．現地調査は、1991年６月10日に開始し、同17日をもって終了した。

3．調査組織は下記のとおりである。

調査主体　　河合町住民福祉課

調査担当者　河合町教育委員会事務局　社会教育課　吉村公男

調査事務局　河合町教育委員会事務局　社会教育課

教 育 長　浅芝辰夫

課　　長　福井裕幸

係　　長　竹田裕昭（９／30まで）・森井幸夫（10／１から）

主　　事　吉川佳美・森川泰典・木戸正人

河合町住民福祉課

民生部長　筒井　　邦

課　　長　渡邉八重子

係　　長　森嶋　豊廣

主　　事　小西美都子

調査作業員　青木勝義、水田博三、中西靖男

調査補助員　冨田眞二・前坂尚志・広瀬時習・辻川哲朗（以上同志社大学）、中山采子

4．本書を作製するにあたり下記の諸機関ならびに諸氏のご指導・ご協力をいただいた。ここに記して謝意を表する。

奈良県立橿原考古学研究所、奈良県教育委員会

泉森皎、河上邦彦、辰巳和弘、井上義光、木下亘、卜部行弘、坂靖、奥田尚、富井徹、木場幸弘

（敬称略、順不同）

5．遺物の整理及び本書の作製は吉村、冨田、中山及び末廣春枝・小林美佐子があたった。

6．遺構並びに遺物の写真撮影は吉村がおこなった。

7．本書の執筆は文末に文責を明らかにし、編集は吉村がおこなった。

目　　次

位置と環境…… 1

調査の契機と経過…… 1

調査結果…… 3

まとめ…… 9

付載　城山古墳採集の埴輪について……10

位置と環境

河合町は奈良盆地の西部に位置し、藤ノ木古墳や法隆寺で知られる北隣の斑鳩町とは大和川を挟んで対面する。この奈良盆地西部には東西７㎞、南北３㎞の低い丘陵が横たわり馬見丘陵と呼ばれている。馬見丘陵の東斜面から北の低地にかけては、大型の古墳が集中して分布しており、奈良盆地の東縁部の大和・柳本古墳群、盆地北部の佐紀盾列古墳群とともに、奈良盆地の３大古墳群の一つに挙げられ、「馬見古墳群」として知られている。「馬見古墳群」はその分布の状況から、３つの群に分けられ、高山３号墳は川合大塚山古墳を中心とする北群に属している。しかし、この「北群」を「馬見古墳群」に含めるかどうかは検討を要する。

高山３号墳は川合大塚山古墳群の１つとして1956（昭和31）年に国の史跡に指定されたが、測量調査等は行われず、ながらく実態は不明であった。今回、その周辺地を調査することとなり、僅かではあるが、新しい資料を得ることができた。

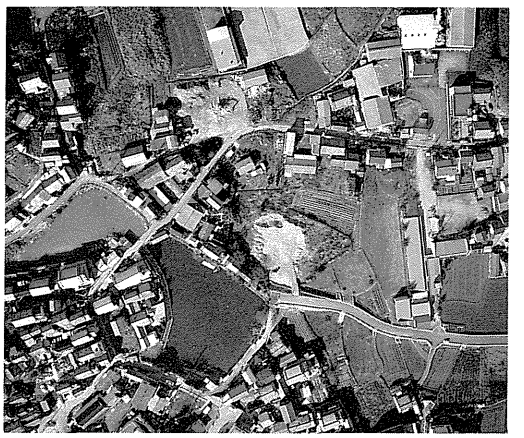


写真１　航空写真

調査の契機と経過

調査地は史跡高山３号墳の東側隣接地である。

図１　位　置　図

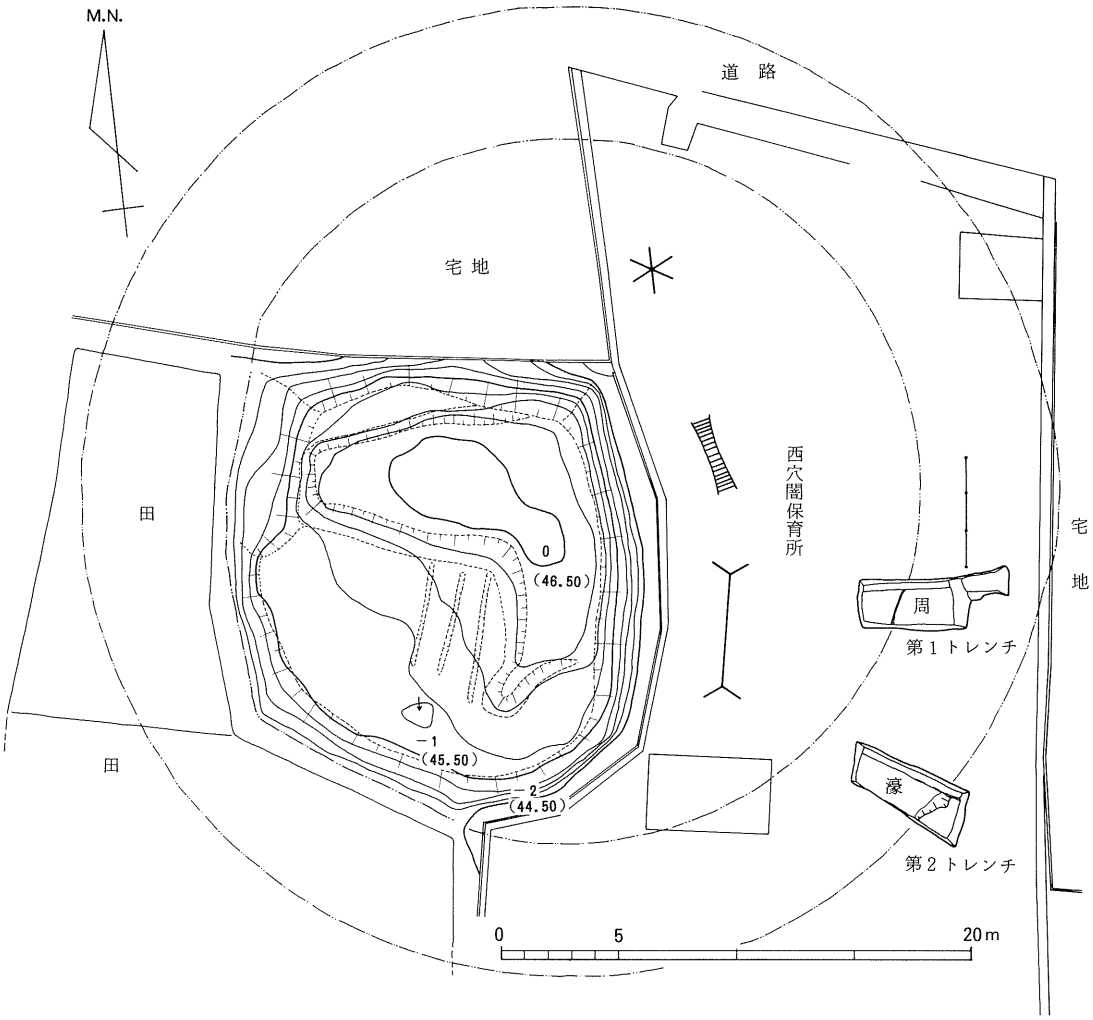


図2　墳丘測量図

現状の高山3号墳は東西約18m、南北約20m、高さ約2mを測る。墳丘は北側と東側で大きく削り取られ、崖状を呈している。このため、調査地が本来の古墳の範囲にあたると推定され、また、史跡指定地に隣接することから、西穴闇保育所の児童プール設置工事に伴う事前調査として発掘調査を実施した。現地調査は1991年6月10日から17日迄の実働7日間を要した。

調査は児童プール設置位置に、幅2m、長5mのトレンチを2本設定した。北側を第1トレンチ、

写真2　調査前（南東から、左奥が墳丘）

南側を第２トレンチとした。

今回の調査においては、標高の基準点が調査地周辺にはなく、加えて、諸般の事情により調査に対する準備が充分できなかったので、墳丘の頂上付近に基準の高さを任意に設定し、コンターはその基準からのマイナスで表現した。ただし、周辺道路から任意に標高を設定しているので、隣接する高山２号墳との高さを比較する目安として、図２・図３に仮の標高を示しておく。今後、機会があれば、高山２号墳と合わせて、同じ標高で表示できるようにしたい。

調査結果

１．層位

西穴闇保育所の敷地全体にわたって、旧耕作土上に厚さ約１ｍの盛土が施されている。基本層序は①盛土、②旧耕作土、③包含層、④周濠埋土である。第１トレンチ、第２トレンチともほぼ同様である。③の包含層は大きく２つの土層に分かれるが、細かく堆積の状況を観察すれば４～５の土層に分けることが可能である。しかしながら、地山直上面まで、瓦器などが入り込んでおり、この部分では後世の開墾による削平が地山直上にまで及んでいると考えられる。地山面の高さは墳丘の等高線０ｍより－3.5ｍ前後であり第２トレンチで若干低くなっている。

２．第１トレンチ

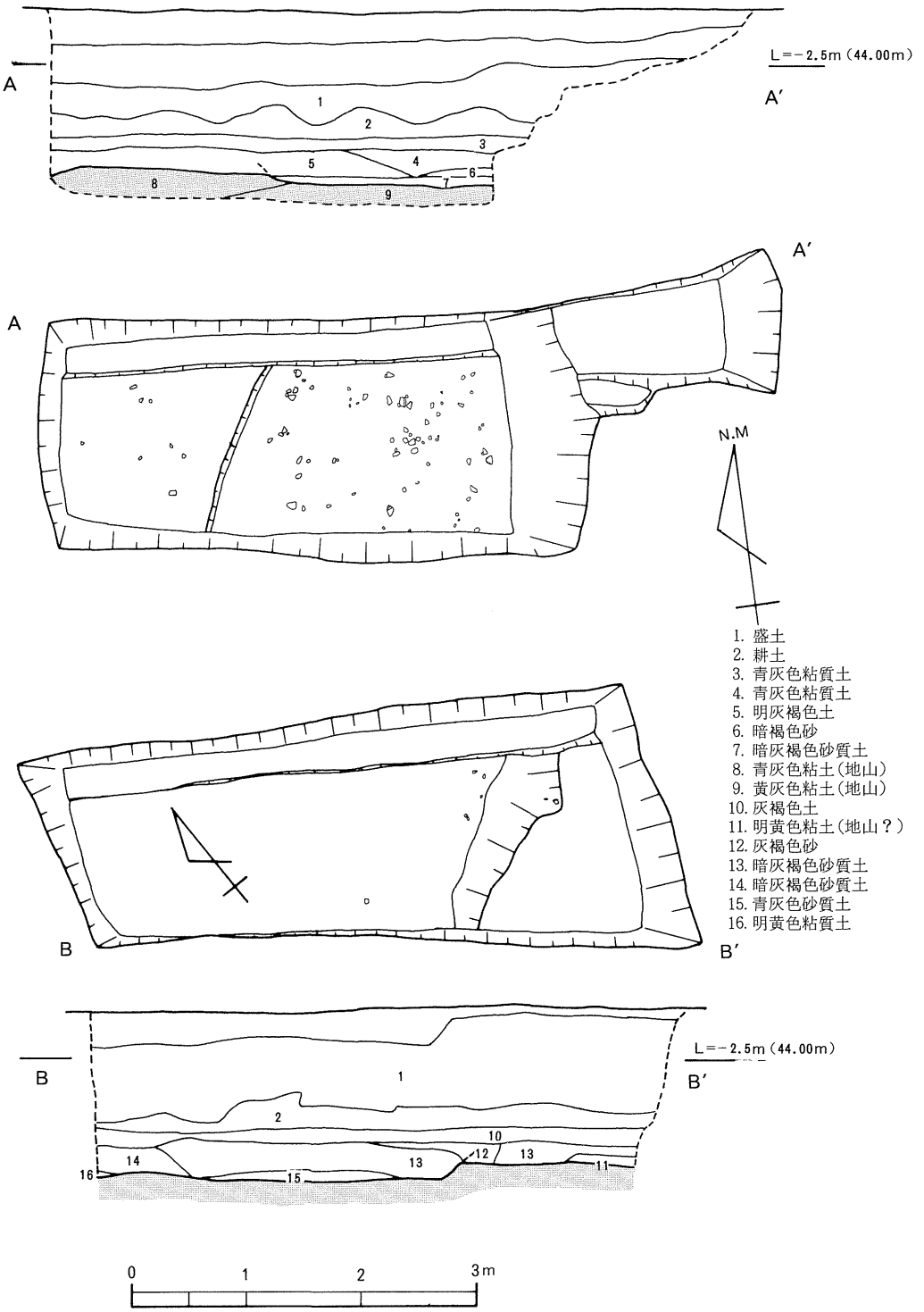
前述のような層位がみられ、トレンチ西半では－3.5ｍの高さで地山面になるが、トレンチの西から1.9ｍ東で地山が10㎝程度落ち込んでいる。ここから東では地山上に層厚10㎝足らずの暗灰褐色砂質土が見られ、この層の上面は西側地山面と水平になる。また、埴輪等の遺物もこの落ち込みより東側で顕著に見られる。これらの状況から、この部分から東側が周濠と考えてよいであろう。

写真３　第１トレンチ全景

また、このトレンチを掘り下げる過程で、滑石製勾玉が１点出土している。掘り上げた土の中から出てきたものであるため、残念ながら原位置は不明になっているが、掘り下げの手順から、地山直上の砂質土中もしくはその上層の明灰褐色土中に含まれていたと考えられる。

３．第２トレンチ

層位はほぼ第１トレンチと同様である。トレンチ南東隅部では地山面の高さは－3.55ｍを測るが、トレンチ南東隅から1.2ｍの地点から北西へ向かって15㎝程度落ち込んでおり、これより北西側が



1. 盛土
2. 耕土
3. 青灰色粘質土
4. 青灰色粘質土
5. 明灰褐色土
6. 暗褐色砂
7. 暗灰褐色砂質土
8. 青灰色粘土(地山)
9. 黄灰色粘土(地山)
10. 灰褐色土
11. 明黄色粘土(地山？)
12. 灰褐色砂
13. 暗灰褐色砂質土
14. 暗灰褐色砂質土
15. 青灰色砂質土
16. 明黄色粘質土

図3　トレンチ平面図及び土層断面図

周濠と考えられる。遺物は第１トレンチに較べて少ないが、この一段低い部分でのみ見られることからも、この部分を周濠と考えて良いと思われる。

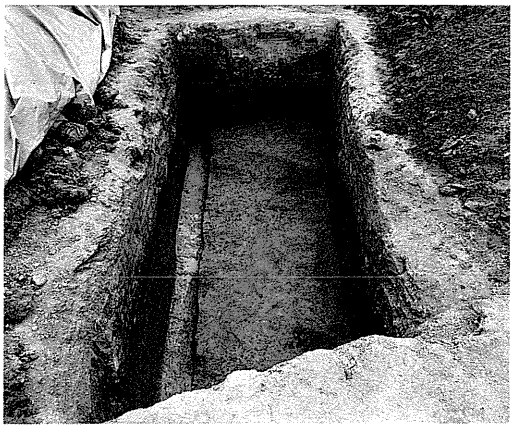


写真４　第２トレンチ全景

４．遺物

今回の発掘調査によって出土した主な遺物は勾玉・埴輪・須恵器である。

①勾玉（図４）

第１トレンチより出土した。材質は滑石で、この石の産地としては、和歌山、相生・養父町（兵庫県）が挙げられるが、可能性としては紀の川流域が高い（奥田尚氏教示）。色調はやや暗い淡青色を呈す。整形技法はやや粗雑であるが、形態上の特徴として、断面楕円形で滑石製の勾玉としては古い形態を残している。

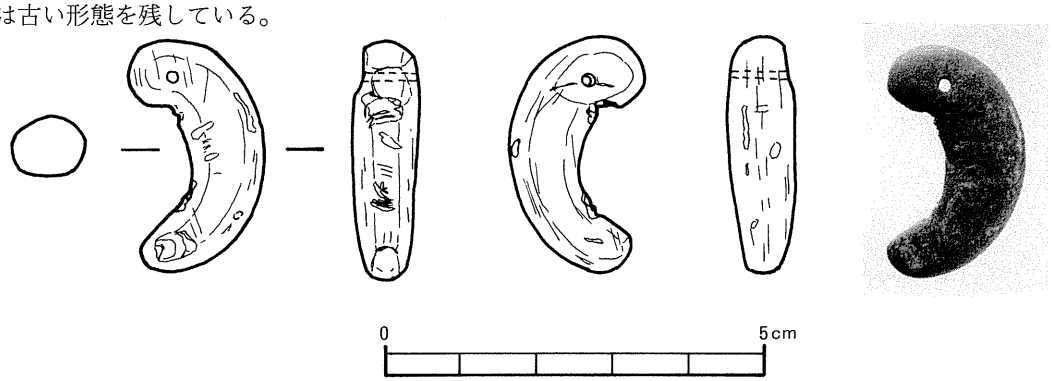


図４　勾玉（第１トレンチ出土）

②須恵器（図５・図６－１～３）

今回の発掘調査により、須恵器の破片が若干出土している。図に示したものは３点であるが、いずれも小さな破片であるため、時期や器種の特定はできず、墳丘築造時のものか、その後の祭儀に関わるものか、また、器種構成も含めて今後の検討課題である。図６－１は壺などの頸部と思われる。図６－２・３は壺・甕の体部であり、２には釉着がみられる。また、1989年度の河合町内遺跡分布調査において、須恵器樽形瓶の破片を採集しているが、ＴＫ208型式期に並行するものと考えられ、古墳築造時期に近いものと考えられる。　　（この項まで吉村）

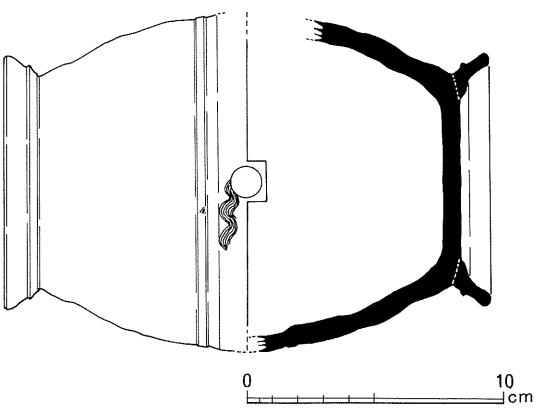


図５　高山３号墳採集樽形瓶

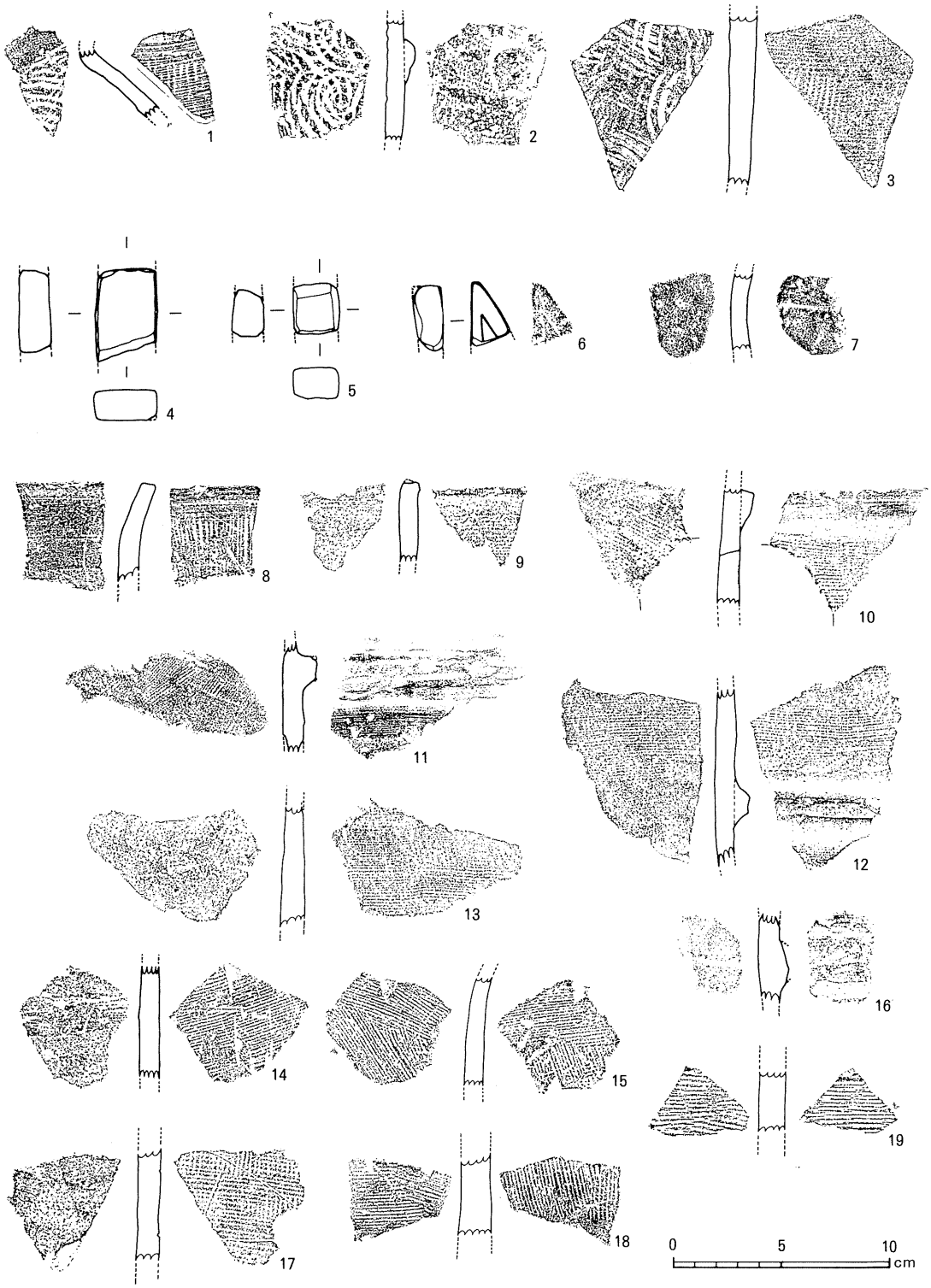


図6　遺物実測図

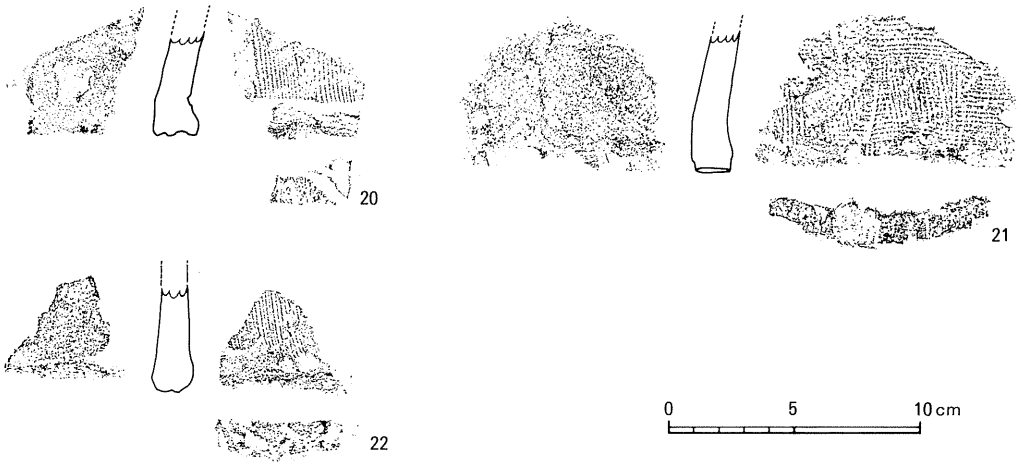


図７　遺物実測図

③埴輪（図６・７－４～22）

今回出土した埴輪は円筒埴輪と形象埴輪があるが、すべて小さな破片であり、全容をうかがうことはできない。

図６－４～７は形象埴輪の破片であり、４～６は蓋形埴輪の立飾の一部と考えられる。６と７には線刻がみられる。７についても４～６と胎土・焼成がよく似ており、蓋形埴輪の一部と思われる。焼成はいずれも土師質で、やや軟質である。

図６－８～19・図７－20～22は円筒埴輪の破片である。これらの破片の中に確実な朝顔形埴輪の破片は認められなかった。

８・９は口縁部の破片である。８は外面調整はタテハケの後にヨコハケを施し、内面はナデで調整する。形態は９と異なりやや外反する。９は外面調整にヨコハケを施し、内面は端面近くのみにヨコハケを施す。また、線刻の一部が残る。

10～19は体部の破片である。外面調整はタテハケの後にヨコハケを施すものがほとんどであり、ヨコハケの中にはＢ種ヨコハケも含まれる。内面調整はナデのみのものと、ナデの後にヨコハケを施すものがある。ハケ原体は細かいものから粗いものまで様々である。凸帯の断面は台形である。スカシは10のみで確認できただけであり、円形スカシである。また、17には三角形状の線刻が施されているが全体像については不明である。11・16には赤彩もみられる。

20～22は底部の破片である。20と22は外面調整としてタテハケ、21はタテハケの後にＢ種ヨコハケを施している。内面はいずれもナデで調整し、底面近くには指頭圧痕を残す。底面には繊維状や棒状の圧痕を残し、底面近くはやや厚くなっている。

円筒埴輪の焼成は全体に堅緻な硬質であり、ほとんど須恵質のものもある。色調は白橙色、赤橙色、青灰色などがある。

以上のことから、高山３号墳の埴輪は高山２号墳・中良塚古墳の埴輪とほぼ同時期に位置づける

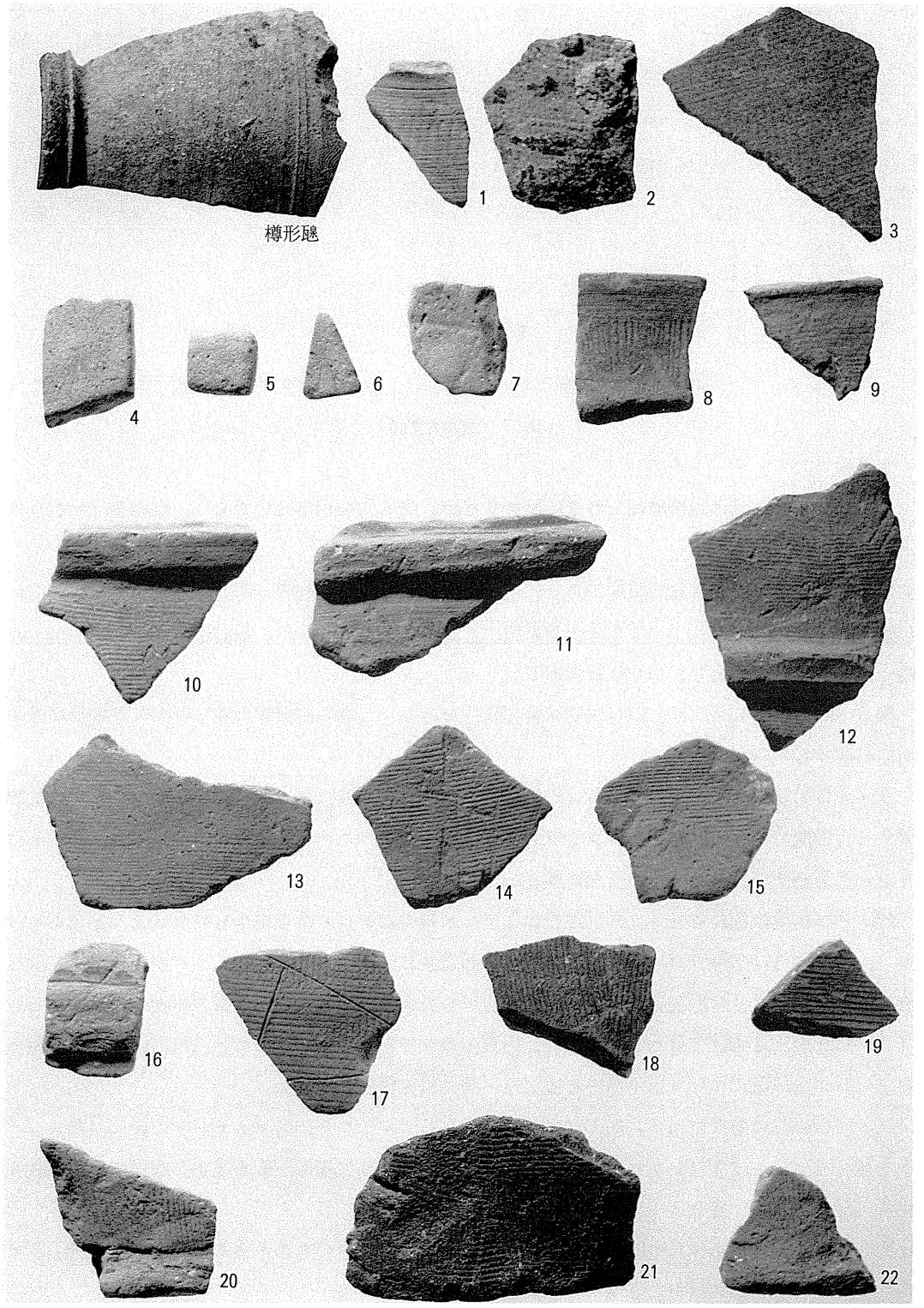


写真5　埴輪・須恵器

ことができる。しかし、資料が限定されているため、円筒埴輪の法量や蓋形埴輪以外の形象埴輪の有無などは不明である。（冨田・吉村）

まとめ

墳丘測量図から、高山３号墳は北と東を大きく削平されていることが判る。今回のトレンチで検出した部分を周濠として理解するならば、西側のコンターが弧を描く部分を墳丘裾として捉えると、高山３号墳の墳丘規模は当初考えていたより大きくなり、直径約30ｍで幅約５ｍ以上の周濠を持つことになる。この数値は、北側に隣接する高山２号墳とほぼ同規模になり、蓋然性が高いと思われる。その高山３号墳に隣接する高山２号墳は、現状では東西16ｍ、南北18ｍの規模であるが、1987年度の発掘調査によって、直径約28ｍで幅約６ｍの周濠を巡らしていることが判っている。そして、今回の高山３号墳の調査により、町道を挟んで南北に相対するこの２基の古墳は、築造当初には周濠を接する程近接して築造されていることがわかった。

また、第１トレンチ出土の勾玉は、現状の墳丘がかなり削平されたものであることを考慮すると、本来の主体部が部分的、または完全に削り取られた結果、周濠部分に落ち込んだものとする可能性と、古墳築造当初より、古墳での祭儀に関連して、棺外もしくは周濠に入れられたものである可能性の両方が考えられる。ただし、材質が滑石であることを考慮すると、近年、河合町佐味田ナガレ山古墳・羽曳野市野山古墳・前橋市舞台１号墳の例など、主体部外での（滑）石製模造品の出土例が増加しており、副葬品と考えるよりは、古墳での祭儀に関連させて理解した方がよいようにも思われる。

川合大塚山古墳を中心とする古墳群は、現在では前方後円墳３基（川合大塚山古墳・中良塚古墳・城山古墳）、円墳４基（丸山古墳・高山２号墳・高山３号墳・高山４号墳）、方墳１基（九僧塚古墳）の合計８基が存在し、一括して国の史跡に指定されている。地元での埴輪の出土・小高い丘があった等の伝承からは、周辺にはさらに数基の小規模古墳があったようである。これらの古墳の築造年代は５世紀後半から６世紀前半にかけての時期が考えられている。埴輪で時期をみれば、以下のようになる。

	４５０年		５００年		
前方後円墳	川合大塚山古墳	→	中良塚古墳	→	城山古墳
円　墳	（丸山古墳）		高山３号墳		
			高山２号墳		
			（高山４号墳）		
方　墳	（九僧塚古墳）				

このうち、城山古墳は６世紀に入ってからの築造であり、他の古墳より若干遅れるようである。そして、地元での話から、横穴式石室が存在した可能性も考慮しなければならない。

群の構成をみると、大塚山古墳に対する九僧塚古墳、中良塚古墳に対する高山３号墳・高山２号

墳は同時期の古市・百舌鳥古墳群にみられるような、大型前方後円墳と陪墳の関係にあり、注目される。城山古墳は一見単独の古墳であるが、前述のごとく、周辺に消滅した古墳があるようであり、陪墳を伴う可能性も否定できない。（吉村）

付載　城山古墳採集の埴輪について

1990年刊行の『河合町遺跡詳細分布調査報告』において、城山古墳採集の埴輪を報告した[①]。その中に一部誤りがあった。上記報告書のP.21図17―2（本書図8）の円筒埴輪の破片は、上記報告書では上下逆に報告している。これは著者並びに編者の誤認であったので、ここで訂正し、技法上の問題点について若干述べておく。

この埴輪の凸帯の上辺にナナメの圧痕が認められるが、同じような圧痕を持つ埴輪は岩室池古墳・黒田大塚古墳・寺口忍海D―27号墳など奈良盆地の後期古墳に多くみられる。この圧痕に関しては、「突帯付加に際し、斜めのヘラ描きを施す[②]」という考えや、「タガとりつけ前に目印的なヘラ状工具によるナナメ方向の刻み目[③]」という考えがすでに出されており、著者も何らかの工具で粗くなでた状態であると理解した[④]。

しかし、最近奈良市において県下初の埴輪窯群が調査され、この圧痕に関する新しい考えが奈良市教育委員会により出された。それによると、これらの圧痕は工具によるものではなく、断続ナデ技法を用いる際につくナデの跡[⑤]であり、断続ナデ技法でつけられた凸帯の上をさらにヨコナデしたためにナナメの圧痕のみ凸帯上辺に残されているという。そして、ナナメの圧痕をもつものを断続ナデ技法A、従来いわれている断続ナデ技法を断続ナデ技法Bとしている。

このナナメの圧痕は今まであまり注意されていなかったものでありさらに詳細な検討が必要であろう。（冨田）

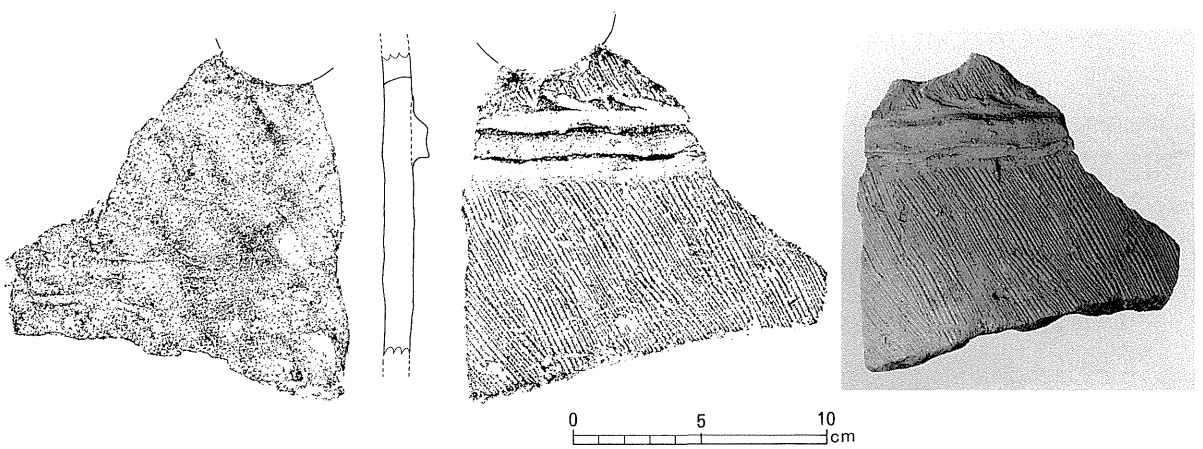


図8　城山古墳採集円筒埴輪

註

①吉村公男『河合町文化財調査報告第4集　河合町遺跡詳細分布調査報告』河合町教育委員会　1990

②関川尚功「大和における大型古墳の変遷」(『考古学論攷第11冊』奈良県立橿原考古学研究所) 1985

③楠元哲夫「岩室池古墳」(『天理市埋蔵文化財調査報告第2集　岩室池古墳　平等坊・岩室遺跡』天理市教育委員会) 1985

④前掲註①

⑤中島和彦「菅原東遺跡埴輪窯跡群の調査」(『大和古中近研究会第2回研究集会発表要旨』) 1992
鐘方正樹・安井宣也・中島和彦「菅原東遺跡をめぐる諸問題」(『奈良市埋蔵文化財調査センター紀要1991』奈良市教育委員会) 1992

高山3号墳発掘調査報告

—河合町文化財調査報告　第5集—

1992年3月31日

編集　河合町教育委員会
奈良県北葛城郡河合町大字池部3
TEL　07455－7－0200

発行　河合町住民福祉課
河合町教育委員会

印刷　明新印刷株式会社